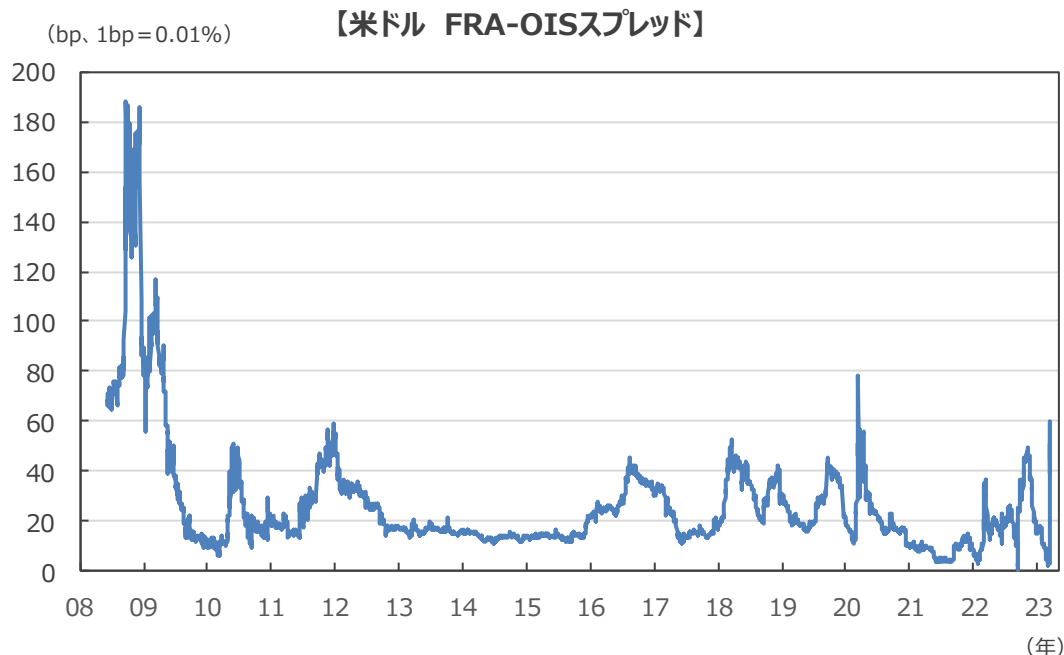




## 今日のトピック 台頭する銀行不安、チェックポイントと見通し 銀行の財務体質は強化、金融当局は迅速に対応

### ポイント1 銀行不安の台頭で市場は混乱

- 米連邦預金保険公社（FDIC）は3月10日、米テクノロジー企業への融資で知られるシリコンバレー・バンク（SVB）が経営破綻したと発表しました。米銀の破綻では、2008年9月に起きたワシントン・ミュージアルの破綻に次ぐ史上2番目の規模です。SVBが経営破綻したことを受け、米金融市場ではリスクオフ（回避）の流れが強まり、株安・債券高が進行し、この動きが日本や欧州の金融市場にも波及しています。15日にはスイスの金融大手クレディ・スイス・グループの株価急落で金融不安が強まり、株式市場が一段安となり、金利は急低下しました。
- 市場で金融不安が高まるなか、米金融機関の信用リスクを示す「FRA-OISスプレッド」は急拡大しています。ただ、ヒストリカルにみると、過去10年では高水準にあるものの、2008年のリーマン・ショックのレベルには遠く及んでいないことがわかります。リーマン・ショック後、金融当局の銀行に対する規制が強まり、銀行の財務安定性が高まったことが背景にあるとみられます。



(注1) データは2008年6月6日～2023年3月16日。

(注2) FRA-OISスプレッドは、銀行間取引金利のFRA（Forward rate agreement、金利先渡し取引）とリスクフリー金利のOIS（Over night index swap、翌日物金利スワップ）の乖離幅。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

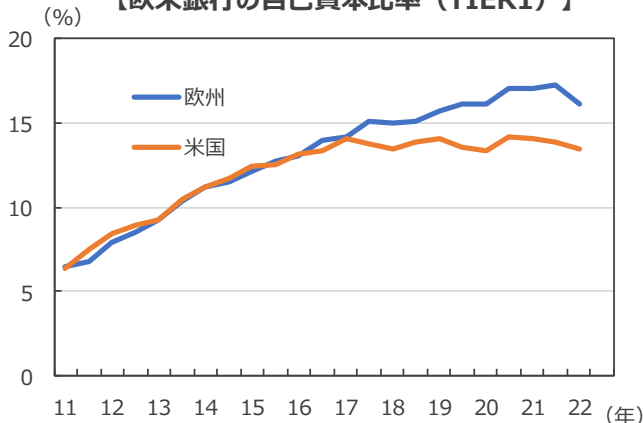
■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。



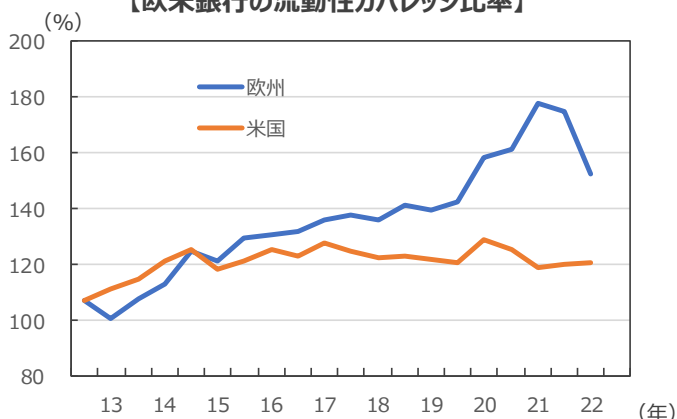
## ポイント2 劇的に改善している銀行の財務健全性

- 「SVBショック」について影響がどこまで広がるのか、現時点では不透明感が強い状況です。ただ、世界的な金融危機となったリーマン・ショックと比較すると、明らかにリスクの所在や規模が異なることが指摘できます。
- 当時、米欧の金融機関は、信用力の低い借り手向け住宅ローンの証券化商品を多く保有し、その価格暴落で世界的な信用収縮が起きました。しかし、今回の「SVBショック」では保有資産や証券化商品の原資産が不良債権化したわけではなく、あくまでも市場金利の上昇による債券価格の変動が起きているにすぎず、事情が大きく異なります。損失の規模がどのぐらいになるかも分からなかったリーマン・ショックと比べ、今回は損失の実態がある程度想定でき、金額も小さいとみられます。
- また、リーマン危機後の金融当局による規制強化で、大手を中心に銀行の財務体質が強化されました。欧米の銀行の自己資本比率や流動性は、リーマン・ショック後大きく改善しており、信用収縮の連鎖による、深刻な金融危機は想定しにくいと考えられます。

【欧米銀行の自己資本比率（TIER1）】



【欧米銀行の流動性カバレッジ比率】



(注) データは2011年6月～2022年6月。

(出所) BISバーゼル委員会のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(注1) データは2012年12月～2022年6月。

(注2) 流動性カバレッジ比率=高品質の流動資産÷30日間の純資金流出額。

(出所) BISバーゼル委員会のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### 今後の展開

## 金融当局の迅速な対応が市場の動揺を抑えよう

- 米財務省、米連邦準備制度理事会（FRB）、FDICは3月12日、SVBとシグネチャー・バンクの預金を全額保護する例外措置を発表しました。また、FRBは、金融システム全体が機能不全に陥る「システミックリスク」を抑制するため、新たな流動性対策を発表しました。クレディ・スイス・グループは16日、スイス国立銀行（中央銀行）の資金供給策を活用して「最大500億スイスフランを調達する用意がある」と発表しました。米欧で相次いだ金融機関の経営不安を背景に、中央銀行の金融引き締め姿勢が緩む可能性も出てきました。銀行株を中心に慎重な見極めが必要ですが、金融当局が事態の收拾に向け迅速に対応していることで、市場は早晩落ち着きを取り戻すと思われます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

### ここも チェック!

2023年3月15日 米SVBショックはどこまで広がりいつまで続くか

2023年3月13日 米シリコンバレー銀行の破綻が金融市場に与える影響について

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。